

◆感動創造企業 Episode 1

12月の初めのある日に、あるお客様の紹介で、A子さんは黒崎店にカットにご来店いたしました。

そのA子さんは、病気で「言葉が出ない」のです。
それに知能指数が5から6歳くらいの状態の大変な大変な28歳の女の子。

そのA子さんを担当したのは、智子さんでした。

そして、黒崎店のスタッフ全員で話しかけ、楽しく明るい対応でA子さんはとても喜んでルンルン気分でおうちに帰り、おうちの方が「こんなA子を見るのは、何年ぶりかしら」と大喜びです。

次の日にバグジーを紹介してくれたお客様にもお礼の電話が入り、「なんとお礼したらいいか」とここでも、喜びの音が・・・。

ドラマはこれで終わりません。

担当した智子さんは、来店の次の日にA子さんに手紙を出しました。

それも、A子さんが読めるようにと宛先すべてを「ひらがな」と「カタカナ」で出したのです。

「またきてね A子さんへ」と。

それが届いた日A子さんが、その手紙を自分で見つけ「A子さんへ」をさして、「私に手紙が来た！」と大喜び、大感動。

A子さんが始めてもらった手紙だからです。

A子さんがお母さんに「これが来たこれが来た」と何度も何度も・・・。

A子さんのお父さんは、A子さんのために毎日遅くまで仕事をしていて、夜の12時に帰宅。そのことを伝えたくて、眠らずにA子さんは待っていて、お父さんに「これ来たこれ来た、A子に来た」と伝えました。

A子さん、お母さん、お父さんは、うれしくて3人で泣きました。

そして次の日に紹介くださった友人の家にお母さんが飛んできて、涙を流しながら「ありがとう、ありがとう、あなたのおかげでこんなに素敵な美容室を知ることができて一生通います。」紹介したお客様も涙が止まらなかったそうです。

その紹介してくれた奥様から、涙ながらに御礼の電話が来たとき、私は、バグジーをやっていて良かったな・・・素敵な社員さんに恵まれたな・・・と涙しました。